

元型で生きるライフの世界

The Light of Archetype

永田円了

天を敬い人を愛す“ライフ”の世界（内村鑑三）、できるだろうか。できるとするなら、その原動力は一体何か。今回はこれを事例をもって検証してみたい。

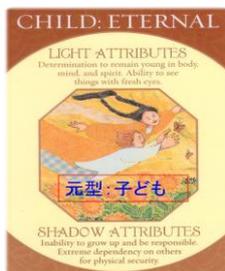
ユングの元型

元型とは、心的エネルギーの塊である。人は、顔かたちや体質が先祖の遺伝子から受け継がれているように、心の特質もまた、古代から受け継がれている。各人がもつ心の要素（心的エネルギー）を、心理学者ユングは元型と名付けた。元型とは、自分を底から突き動かすもの、無意識界の原動力である。



分断と自国優先を促進させたトランプ大統領（事例 1）、この人の原動力は何なのか。“ライフ”からほど遠いこの男の活力は何だろうか。「子ども元型」である。

元型はまず黒い闇の症状から現れる。子ども元型の闇とは、「自分に合う人とだけ話をする。苦手の人とは距離を置く。気分のムラが大きく、燃えていると思ったら、いつの間にかサボっている。注意するとすぐむくれる。素直に感謝したことがない。言いたいことは言うが、人の話は聞いていない。責任はうまく避ける。でも権利はうまく主張する。」という“子ども”の持つ自己中心的な体質がそのまま大人の言動の中に現れる。



子ども元型（光）

元型は闇の部分があまにも凄まじく、ほとんどがこの闇にのまれてしまう。しかし闇があれば必ず光があるもの。言うなれば、光があるから闇があり、闇があるから光の存在が分かる、という相関関係にあるのである。

救急医・上原淳（56）の生き方（事例 2）、まさに“ライフ”のど真ん中を生きる人生には、子ども元型（光）が躍動する（NHK「逆転人生」救急医の気骨・型破りの挑戦）。

子どもの持つ、天真爛漫さ、素直さ、今を生きる意識、これらが見事に医師・上原淳の行動を仕切っている。たらい回しにされる救急医療の現場、これを何とかしたい、と自らが救急クリニックを開設し、一般医療が手薄な時間帯、夕方4時から翌朝9時まで、すべての救急の受け入れを決断した。

書家・相田みつを、ライフを生きる

「つまづいたっていいじゃないか、人間だもの」で知られる相田みつを、この人の原動力は何だったんだろうか。書家だけで生活を支えてゆくのは、並大抵のことではなかった。しかし相田は“身売り”（売春夫）にはならなかった。またあえて定職にもつかず、書に没頭した。精神の自由は誰にも渡さない（売春婦・光）、という気骨が相田を創ったのである。

母親の嫁いじめにも散々悩まされた。しかしこの苦悩が“逆縁の菩薩”：犠牲者（光）として相田を禅の世界へと導いたのである。天はいつも痛みを伴う“山”（試練）を人間に与える。さあ、これをどうする。闇の元型に飲み込まれるか、闇を光に変えて“ライフ”を生きるか。

<事例 DVD>

内村鑑三／ライフの欠乏を訴えた
ユングの元型／無意識界の原動力
4つの元型：子供、犠牲者、売春婦（夫）、潰し屋
トランプ大統領／元型：子供の闇が暴れまくる
子ども元型（光）がみなぎる／救急医・上原淳（56）
ライフを生きる相田みつを／売春夫（光）、犠牲者（光）
「精神の自由は誰にも渡さない」「逆縁の菩薩」
歌・エルビス・プレスリー／神は試練を与えたもうた
You Gave Me A Mountain



神はわたしに
試練を与えたもうた

エルビス・プレスリー「You Gave Me A Mountain」